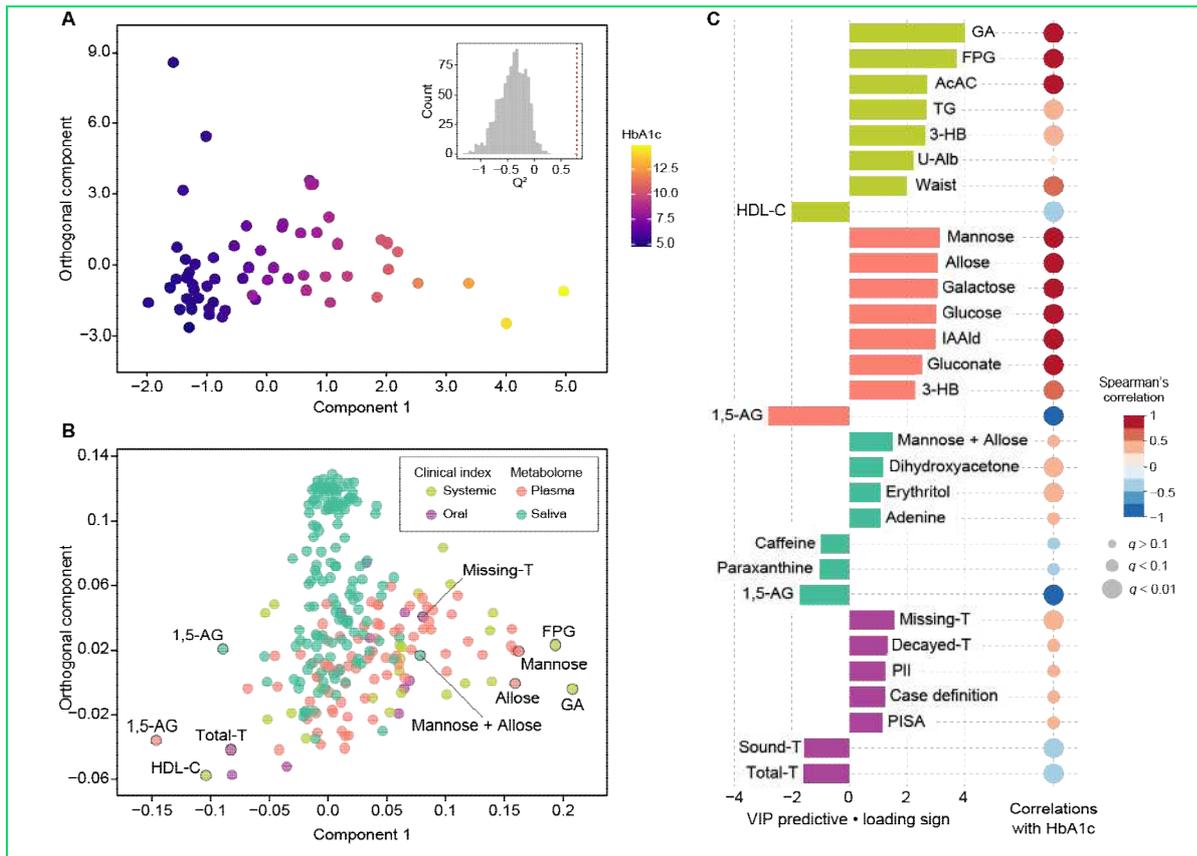


令和3年度 臨床研究テーマ成果報告書

診療科（部）名：予防歯科
第3期中期目標・中期計画期間中の臨床研究テーマについて該当するものにチェックを入れてください。（塗りつぶし可）
<input type="checkbox"/> 1. 口腔領域における新規組織再生・再建法の開発 <input type="checkbox"/> 2. 高齢者の特性に配慮した口腔疾患の予防法・診断法・治療法の開発 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 顎口腔機能の維持増進に関する研究 <input type="checkbox"/> 4. 歯科医学臨床教育の質保証に関する研究 <input type="checkbox"/> 5. その他
研究期間：令和3年4月1日～令和4年3月31日
研究課題名：歯周病発症予測指標の確立
研究課題の概要及び成果： <p>本年度は、同日採取した吐出全唾液と血漿のメタボロームを比較検討し、HbA1cの変動に寄与した代謝物指標の検討を進めた。</p> <p>HbA1cの変動に寄与した代謝物指標の検討</p> <p>全身および口腔の臨床指標、血漿代謝物、唾液代謝物の各データブロックと HbA1c がどのように連動しているか評価するために、HbA1c を応答変数、それ以外のパラメータを説明変数とし、線形的次元圧縮法のひとつである OPLS モデルを用いて解析した。</p> <p>図 A が HbA1c レベルに応じた被験者の分布、図 B がそれに呼応した各説明変数の分布で、黄色が全身の臨床指標、赤が血漿代謝物、緑が唾液代謝物、紫が口腔の臨床指標を示す。</p> <p>図 C はスピアマンの順位相関係数による分析の結果、各変数ブロックで HbA1c と関連が強かった上位8つの変数を表示している。興味深いことに、マンノース、アロース、1,5-AG の挙動が血液と唾液で一致していた。</p> <p>図 D は、血漿であっても唾液であっても、(マンノース+アロース) と HbA1c に強い正の相関が、また、1,5-AG と HbA1c に強い負の相関があることを示しており、この相関は交絡を補正しても有意であった。</p> <p>図 E の ROC は、糖尿病患者の判別能を評価した結果であり、唾液を用いた場合でも、(マンノース+アロース) を 1,5-AG で除して得られた数値は、AUC 0.92 と優れた判別能を有することが示された。</p>

上記概要・成果に関連する図表等



当該臨床研究が「口の難病プロジェクト」に関連しているか否か下記のBOXのいずれかにチェックを付してください。(塗りつぶし可)

- 関連がある
 関連はない

